

2016年度目録委員会記録 No.7

第7回委員会

日時：2016年11月5日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会

出席：渡邊委員長、木下、河野、田代、津田、野美山、平田、村上、横山
<事務局>磯部

[配布資料]

1. 刊行に向けてのメモ（2016.11.5 現在）（5 ページ-A4）（渡邊委員長）
2. 2017年度事業計画及び予算調書[案]（2 ページ-A4）（渡邊委員長）
3. 出版企画書[案]（5 ページ-A4）（渡邊委員長）
4. 用語解説 暫定版（14 ページ-A3）（河野委員）
5. 用語解説の作成について（1 ページ-A4）（河野委員）
6. 付録#A.1 片仮名表記法（6 ページ-A4）（村上委員）
7. 付録#A.1 片仮名表記法 事前コメント（5 ページ-A4）（田代委員）
8. 説明聴取会記録（国文学研究資料館）および参考資料（優曇華物語）（6+1 ページ-A4）（津田委員）
9. 説明聴取会記録（株式会社トッカータ）（5 ページ-A4）（津田委員）
10. 2016年度第6回目録委員会記録（案）（5 ページ-A4）
11. 2016年度第5回目録委員会記録（5 ページ-A4）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

2016年度第6回目録委員会記録（資料10）について確認した。

2. 新NCRの刊行に向けて

資料1、2、3に基づき、スケジュールの確認や、検討集会等についての議論を行った。

- ・名称は、パブリックコメント終了までは『日本目録規則 2018年版』（仮称）とする。
- ・委員会とNDLの合意案（暫定案）として公開する予定の範囲につき、今後のスケジュールと作業内容を確認した。1月の目録委員会で最終確認のうえ、2月上旬に公開の予定。
- ・検討集会について。
 - 広報は、まず日本図書館協会のウェブサイトで告知した後、『図書館雑誌』『図書館界』等に記事を掲載したい。
 - 報告者については、各委員が当日の出席が可能かどうか確認のうえで、分担を検討する。

- 日程は、関西は3月5日（日）開催で決定する。東京は5月前半の金曜日開催で調整する。
- 検討集会資料は、新NCRの構成や条文案に加え、新規則策定の経緯と概要を冒頭に掲載する。これは渡邊委員長が執筆を担当し、事前に『図書館雑誌』に掲載予定。
- ・「2017年度事業計画及び予算調書」および「出版企画書」の提出につき、委員会です承した。新NCRを2018年度に冊子体で刊行する。それに先立ち、2017年度内（2018年3月）にウェブ版を無償公開する予定。

3. 関係機関との調整の進捗状況について

国文学研究資料館および株式会社トッカータへの新NCRに関する説明聴取会記録（資料8、9）をもとに、両機関からの疑問や意見について確認した。

[検討事項]

1. 用語解説

資料4、5に基づき、分担と作業手順を確認した。

- ・「用語解説 暫定版」の候補語リストに収録した範囲は、「用語解説（暫定版）に関するメモ（2016.6）」に従った。FRBRの実体名、エレメントの名称、表現種別・機器種別・刊行方式の語彙リストの用語は全て含む。キャリア種別やその他の語彙リストの用語は原則として含まず、特に必要なもののみ含む。条文で規定した入力形は原則として含まず、関連指示子の用語も含まない。その他、重要と思われる語を選んで掲載していく。
- ・解説文の文体は、現NCR用語解説も参照しつつ、一文目を体現止めとし、二文目以降は通常の説明文とするのが良い。「である調」とし、簡潔にまとめる。
- ・12月の目録委員会を目標に各自の作業を進め、1月の目録委員会までに調整する。迷うものは早めにメーリングリストで提示する。

2. 片仮名表記法

資料6、7に基づき、次のとおり議論した。

- ・前提として、アルファベットや記号を片仮名化するかしないかは属性総則が扱う。片仮名化する場合に付録A1「片仮名表記法」が参照される。
- ・属性総則#1.12.2.1（外国語のタイトルまたは名称）、#1.12.2.2（読み）から付録A1が参照されるが、#1.12.2.2はルビのある場合を除いてアルファベットを片仮名化することが想定されていない。国内で見られる運用の継続を保証するため、暫定案の2月公開に向けて再検討する。
- ・#A.1.1.3「[ヂ」「ヅ」の「二語の連合または同音の連呼によって生じた…」の条件は不要。現NCRのように和語、漢語と外来語を分けないこととしたため。
- ・出現頻度から考えると、#A.1.1内の構成としては、助詞「ハ」「ヘ」「ヲ」→拗音、促音→

長音→拗長音→特殊な例（「ヂ」「ヅ」など）→旧仮名遣いの順番が適当ではないか。引き続き検討する。

・#A.1.2 の例示「ローリング, J.K.」は、読みではなく、属性総則#1.12.2.1の規定により外国語の名称を片仮名形で記録する例であることが分らないと理解できないため、注を付す。

・#A.1.4 「記号」については、属性総則と合わせて検討が必要。

次回以降の委員会の予定

12月17日（土）

2017年1月21日（土）

以 上